

優秀賞

大事な手紙

徳島県 美馬市立江原南小学校四年 藤森 あかり

わたしには、大切にしているものがあります。それは、ある和菓子屋さんからもらった手紙です。

わたしのゆめは、パティシエになることです。小さいころからお菓子作りが、大好きでした。よく、おやつにクッキーやパンケーキを作ったり、自分のたん生日ケーキを作ったりしています。二年生のときにわたしの地いきには、どんなお菓子やさんがあるか気になり調べてみました。そして、六つのお菓子屋さんインタビューをしました。その中でわたしが一番心にのこったのは、ある和菓子屋さんです。そのお店は昔からある和菓子屋さんで、自家製のあんこが自まんでした。昔から受けつがれた人気和菓子をたくさん作っていました。それに、若い人や子ども向けに新しいお菓子もたくさん作っていました。

わたしは、そのお店の人に、

「仕事をしていてうれしいことは何ですか。」とたずねました。すると、

「お客さんがおいしかったよと言ってくれること。」と答えてくれました。お客さんのことを一番に考えて作っているのは、すごいと感動しました。また、和菓子作りで一番大事なことは「お客さんのすがたをそうぞうすること」だそうです。わたしも、しょう来、パティシエになったときは、お客さんのことをそうぞうしながら、おいしいお菓子を作りたいです。ただ自分の好きなものだけを作るのではなく、みんながよろこんでくれるいろいろな和菓子を作っているお店の人をカッコいいと思いました。

後日、インタビューに答えてくれたので、お店の人に手紙を書きました。わたしは、インタビューしただけで分かったこと、これからパティシエになるためにがんばっていくことを書きました。手紙を送

ると、お店の方から手紙の返事がきました。

「まだ二年生なのに、自分のしょう来のことを考えられていることに、私は感動しました。これから、家族や友達のことを大切に、勉強に、遊びに、一生けん命がんばってください。おうえんしています」と書いてありました。わたしはとてもうれしい気持ちになりました。わたしのことをほめてくれたり、おうえんしたりしてくれる人がいるとこれからはがんばろうと思いました。

それからわたしは、食べてもらう人の気持ちを考えておかし作りをするようになりました。例えば、パンケーキを作ったときは、いろいろなトッピングを用意しました。お父さんはバナナが好きなのでバナナをたくさん入れたり、弟はみかんが好きなのでみかんをたくさん入れたり、工夫しました。そうすると、みんなよるこんで食べてくれました。和菓子屋さんの気持ちが分かった気がしました。

この手紙は、わたしの考え方を覚えてくれた、わたしをささえてくれる大事な大事な手紙です。

